



Special Olympics

2016年度 ルール変更 対照表

競技名: 競泳

変更前の内容	変更後の内容
	ルール変更対照表には、内容の変更があった箇所のみ記載しています。
水泳競技	競泳
セクションA-公式種目	公式種目 追加: 25m自由形(補助付き) 削除: 10m自由形(補助付き)
セクションB-一般ルール	追加: 3.9 マーキング 3.9.1 競技中、すべての泳者は個人ビブナンバーを使用することによって確認される。このナンバーはいつでも識別可能な両腕の上部に垂直に記される。すべてのビブナンバーは40 mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。 3.9.2 競技中、泳法例外コードは泳者の腕で確認される。このコードはいつでも識別可能な、両腕の上部のビブナンバーより下に垂直に記される。泳法例外コードは40 mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。泳法例外コードは、泳者がスタートや文化上、健康上あるいは安全上の理由で正しい競泳ルールに従うことができない場合に使用される。
セクションC-人員 3.ライフガードの条件 d. ライフガードの資格は地域もしくは国内プログラムの基準を満たしていなければならない。ライフガードは、監視中に他の職務を並行して行っていない。コーチが訓練されたライフガードである場合も、コーチの役割とライフガードの職務を並行	4.11 へ移動、一部削除

<p>して行ってはならず、必ずどちらか一方だけを行う。</p> <p>5. ヘッドコーチ、または競技会責任者の責任</p>	<p>4.1.1 競技会責任者の責任</p>
<p>セクション D- 安全対策</p> <p>1. 基本規則</p> <p>c. ヘッドコーチまたは競技会実行委員長は、各活動や競技会を行う前に…</p>	<p>5.1.3 競技会実行委員長は、各活動や競技会を行う前に…</p>